



中央
會
會

特 別
A5
6590
2



小席

祖翁の徳もはるし深山の
三ヶ里深のまはれ新世ふおほし
是のまげのちあふおほまの
ちあふのまはるし大のちあふ
まはるしあふのちあふ
あふのちあふのちあふ
風仙



法華の如くは妙法蓮華經の如く
 即ち此の如くは妙法蓮華經の如く
 妙法蓮華經の如くは妙法蓮華經の如く
 妙法蓮華經の如くは妙法蓮華經の如く
 妙法蓮華經の如くは妙法蓮華經の如く
 妙法蓮華經の如くは妙法蓮華經の如く
 妙法蓮華經の如くは妙法蓮華經の如く
 妙法蓮華經の如くは妙法蓮華經の如く
 妙法蓮華經の如くは妙法蓮華經の如く
 妙法蓮華經の如くは妙法蓮華經の如く

法蓮寺自

法蓮寺の如くは妙法蓮華經の如く

法蓮寺の如くは妙法蓮華經の如く

元禄

今日の日蓮會は法蓮寺の
 妙法蓮華經の如くは妙法蓮華經の如く
 妙法蓮華經の如くは妙法蓮華經の如く

法蓮寺の如くは妙法蓮華經の如く

法蓮寺の如くは妙法蓮華經の如く

白梅坊



夕や今日庵はを我忌十々
 凡仙杖をゆりゆり
 没を勤修す

夢庵

玄阿

くせ我忌や杖突坂を雲は立

今年のこと我忌ハ平事也

没を法とて修す

平日庵

宗我

くせ我忌や系漬は誘ふ松の凡

○

稀は花路もや小春の翁の目

惹阿

柳もこのけの縁見えし柳芭蕉の舎

朴堂

ひささぬめ——替へるいけに中

柳衣

くとせ成忌や粉糠の匂は月夜
 くとせ成忌やささの松の風視よ
 芭蕉忌やいつともよ葉の底は塚
 小の斛糸粥を焚んてせ成忌會
 くとせ成忌や袴笠下のきりくま
 今やむく誠の愛はゆり花
 古池の蛙もおよとせ成忌會
 くとせ成忌や菜飯も汁も匂の白ひ
 くとせ成忌や花も廣也を垣とり
 富存
 慈風
 雲阿
 左風
 元也
 花見坊
 柳叟
 其風
 柳夢

くとせ成忌や白ひ花もゆり咲
 くとせ成忌や苔は細乃袴笠
 を江のや月も縁席のとせ成忌會
 くとせ成忌や草薙のさすも天下一
 くとせ成忌やささあり丸はゆり花
 くとせ成忌や月も暈著く縁は連
 くとせ成忌や茶海も友も此袴
 月の影もささもぬよとせ成忌會
 庭掃くくや縁はとせ成忌會
 故園
 挑水
 泰路
 松阿
 松月
 古川
 汀松
 南露
 東林

くせ成忌や庵とめくろく白と

松父

くせ成忌や今よ治とあつた紫

庸和

くせ成忌や枯れととつた紫

王紫

くせ成忌や石菰水仙のみく

梅居

川よ入と松凡洲とくせ成忌今

都扇

いさめくくこらけとくせ成忌今

九十二翁
竹賀



くせ成忌や色紙よはやく破障子

可竹

くせ成忌やと推れ賣れとと感

梅二



くせ成忌や猿よとと松の月

如^{お品天明}水

打あつく月をさく水芭蕉の今

元沙

はらりと知事もあつた芭蕉の今

女
今月

一里ハハと表徳也くせ成忌の今

著生
樂夢

秋ももくく松凡中やとくせ成忌の今

下徳大竹
桐裁

くせ成忌や茶はらと今治のつ便

白水

くせ成忌や庭も織戸も杖とと

素月

くせ成忌やしと今ハハと松の今

寺飯ツカ
文石

初見たー紅葉落る日やとぬさし

上サ志聖

老我

隣子か〜ら仙之は〜とせ成の念

下サ小須賀

白明

とせ成忌やい〜も〜も雨笠

下サ香丸

梅考

とせ成忌やあ〜と〜ふ向の初

秋文

○

甲府連

とせ成忌や雪染の戸は杖と立

會司

一方

祖蘇百年の法蓮小僧の俗と交よ
と〜通は〜や小春は百千鳥

仙玉

とせ成忌や鉄の氷たる滝の声

栢兒

とせ成忌は阿ふ大津計阿ふ

可春

とせ成忌やおよぬ我も乃成忌

たつ女

とせ成忌や雪と〜向れあ字七字

厚東

とせ成忌や雀と粟を施さ〜ん

里俣

とせ成忌や後と木は実を捧ぐ

文奴

毎火と花と〜白ん〜とせ成忌

鳥橋

とせ成忌や〜ふ〜ふ〜の意報

梅英

○

甲斐白井河原連

會司

とせ成忌や〜白ひの花はも

道尾

とせ成忌は〜と〜と〜のゆり草

三曉

海山のきも風物やとせ成のそ

園花

とせ成忌や堀も時知れくら雲

蛙仁

○

甲品上今飯館連

とせ成忌や筆も歳むじし筆をり

完車

経巻よ経冊もありとせ成の今

机表

とせ成忌や筆は庵も一飯 向

英泉

古ひしる筆小正線やとせ成の今

桂花

○

下将水海道

とつ雪やりそとせ成忌は春と海

和風

武勝校又小麻中連

とせ成忌や筆は花活系古多庵

五粒

とせ成忌や庵は満く系新法師

怒軌

とせ成忌や馬古も一庵の句兄弟

秀波

○

上毛桐生町連

時雨ももよも舞あきらん十二日

素陰

とせ成忌や松法とつ月法師

得牛

とせ成忌や雪の花まうし月の雪

旭梅

とせ成忌や詠とつ今飯館より花

歌江

七

上毛下田次連

芭蕉忌や名所影一の多松
三杠
李門
緑秀

○

くせ成忌や本くもふま葉と盛り
休鶏
一白
くせ成忌や栢中さめふふ美成歌
江戸
樵咲

下総田川

江戸浅井

芭蕉忌 歌仙行

元夢坊

芭蕉忌や瓢ふつふふ一合

時雨たむろく魔能藁笠

物流少程を流きも水はく

折く雪をも眼きく物さ

松枝の弓くう形冬之日能月

鳴つ鳴ちれつ庭を草積

玄阿

富存

竹松

朴堂

其風

五月定

フセテ

いふ歳とくも扇をひき著す
摺きいひゆく車長持
知りまき都ちきき控別よ
松奥くまどて鄭公近
掛くこは虹も日和の丸流し
和賤も海んくゆき神と
方便の所く八百やとを海津
落し影にむかふ賣よふ

阿 松 堂 風 阿 存 松

十石山

青樓ハ何よはせもあそび
雇禿らみ子坊とあり
初花よあはる月くは月の眉
山明あはれ小籠子の声く
寺小舟も母あふりき招活歎
暑の友連て画師のあそび
そふち忍ぶ志のくき言掛り
流しうけくき竹遊く

阿 松 堂 風 阿 存 松

我場より別處に馬にいと立
琴之味線より計ふ大君
かきつけ結着も葛城と千代けく
雪ころりころりと井系に系
枯枝よりくく鳩乃室をく
八幡の宮にうつさき宮立
月の弓後よりわくわく新に後
とるなり川に明る書の中

存松堂 阿風堂 存松堂

ニツ工月

席を系中に際立青搔柑
六位ふくくも直に大壯
鼻紙の端も和奇を書らば
をらりてく系を揚枝身搔
ゆつてく系を流し系を流し酒
蝶は此の庵にうらうら

風松存 阿堂風

ニツ六花

天尾

仰りてふささくも嘆き芭蕉の白

下徳小全京

立砂

時雨の那二人もあひまをさむら

東武

中阿

おもくろく雪もやあんと世談の忌

下徳珍書

南道

そせ浅忌や祝の海も從電湖形

東武

一牛

そせ浅忌や蓮の枯垂れ自張笠

下徳小全京

一堂

くろくやも名ハ朽ぬ蓑と笠

東武

耕淵

去年見く粟津のうきよ時雨空

一茶

芭蕉忌友ハ竹みよ似あふ那

空佛

